

地元の砥石産地史 児童学ぶ

地元の山中で産出された砥石を手に取る青野小の児童たち(亀岡市東本梅町・砥取家)



亀岡・青野小 包丁研ぎも体験

亀岡市宮前町の青野小の児童が16日、地元でかつて盛んだった砥石業について体験学習した。採掘・販売を営む男性から、国内有数の砥石産地だった歴史や、刃物の研ぎ方などを教わった。

学区内で継承したいものを調べる社会科学習の一環で3年生10人が、1877年創業の「砥取家」の土橋要造さん(65)＝同市東本梅町＝を訪ねた。土橋さんは、周辺の山中に良質な天然砥石となる地層があることや、昭和

20年代は国内有数の生産地として400人が従事していた歴史などを説明。「和食が世界遺産になり、和包丁と手入れに欠かせない砥石への注目が世界的に高まっている」と語った。

児童たちは地元産の多様な砥石を次々と手に取って重さや肌触りを確かめたり、包丁研ぎに挑戦したりした。「自分の住む地域の名前がついた石があった」「家の包丁も自分で研げるようにしたい」などと喜んでいった。

(菅田恭彦)